

PRESS RELEASE (2018.4.16)

美術家 松谷武判の第 57 回ヴェネツィア・ビエンナーレの
作品展示ドキュメンタリー映像

「MATSUTANI Stream in Venice (邦題：松谷 流れ ベニス)」

独・ワールドメディアフェスティバルで銀賞を受賞



フランス・パリで創作活動を 50 年以上続けている美術家 松谷武判のヴェネツィア・ビエンナーレでの作品展示の情景を映像化した「MATSUTANI Stream in Venice」(RaRa Project 藤原次郎、奥村恵美子制作)が、ドキュメンタリー/他部門で「銀賞」を受賞しました。

ワールドメディアフェスティバルは、2000 年にドイツ・ハンブルクで始まり、今年は第 19 回。広報・アニメーション・ドキュメンタリー・教育・エンターテインメント分野での企業映像・TV 番組・印刷物・ウェブサイト動画などを対象とした、現代メディアの国際コンペティションで、今年は、37 カ国から 785 作品の応募がありました。第 9 回 (2008 年) のワールドメディアフェスティバルでは、同じく松谷武判の作品世界を映像化した「MATSUTANI 1」(RaRa Project 制作)が PR/アート部門で金賞と特別賞を受賞しています。



【映像について】

「MATSUTANI Stream in Venice (邦題：松谷 流れ ベニス)

<https://youtu.be/IVHaspM29CU>

第 57 回ヴェネツィア・ビエンナーレが 2017 年 5 月 13 日から 11 月 26 日まで開催され、関西で生まれ育ち「具体」で活動したパリ在住の美術家 松谷武判がディレクターのクリスティヌ・マセル氏によって国際招待作家の一人に選ばれました。松谷の作品はアルセナーレの屋内インスタレーションとジャルディーニの庭園で既存の樹木を取り込んだ屋外インスタレーションの二つが展示されました。

4メートル×20メートルのキャンバスは半年以上かけて6Bの鉛筆で描かれたもの。その巨大なドロ잉に、ボンドで立体にした作品を組み合わせ、さらに墨汁を入れた袋を天井から吊り下げ、その袋に穴を開け墨を落としていきます。

過去という時間の集積がドロ잉に込められ、また、袋からしたたり落ちる墨が連続する今という時間を表現します。その空間に立つと包み込まれるような印象を受け、それはまるでお寺の空間に佇むかのようなようでした。

この映像作品は、2017年4月22日から会場で始まった作品の設営の情景を中心に構成しています。撮影した藤原次郎はあくまでもカメラを固定した水平垂直構図を基本に構成し、黒の世界に潜む時間を想像させます。松谷の作品は制作だけでなく、設営もまたパフォーマンスアートであり、留まることのない時の流れを感じさせます。

11世紀にできた長い歴史あるアルセナーレの巨大空間での映像ドキュメンタリーには、日本人の精神性が表現されています。

制作した RaRa Project は、2005 年から松谷武判の作品世界を映像化し続けている映像制作ユニットです。

【映像について】

タイトル：MATSUTANI Stream in Venice (邦題：松谷 流れ ベニス)

企画・制作：RaRa Project

撮影・編集：藤原次郎

プロデューサー：奥村恵美子

撮影協力：Kate VAN HOUTEN、Hiroko HORI、Antonin MAENO

写真協力：Andrea AVEZZÙ、Italo RONDINELLA、Masaki MORITA、Antonin MAENO

英語翻訳：Fontaine Limited

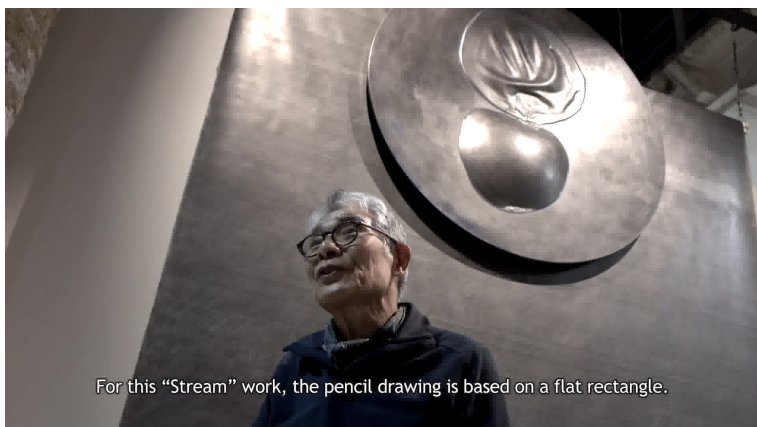
特別協力：La Biennale di Venezia、Christine MACEL、Hauser & Wirth

時間：10分30秒

制作年：2017年

【プロフィール】

松谷武判 美術家



- 1937年 大阪市に生まれる。
- 1954年 大阪市立工芸高等学校日本画科に入学。
- 1957年 西宮市展日本画部に初入選。
- 1960年 具体美術展に初出品。
- 1962年 ボンドを使用したレリーフの作品を発表し、その官能的な形と独創性が高い評価を受ける。
- 1963年 具体美術協会会員に推挙。同年にグタイピナコテカにボンドによるレリーフを出品。
- 1966年 フランス政府給費留学生選抜、第1回毎日美術コンクールでグランプリを受賞し渡仏、以後パリを拠点とする。
- 1967年 S.W.ヘイターのアトリエ17に入門、1969～70年にかけて助手を務める。
- 1970年 アトリエ17を辞し、モンパルナスにシルクスクリーン版画工房を設立、のちバステューユに移る。
- 1970年代末からは、画面やボンドのレリーフを鉛筆で黒く塗りつぶすモノクロームの作品を主に手掛けている。
- 1980年 柔らかく濃い鉛筆で、黒く塗りつぶすという独自のスタイルを確立。
- 2002年 「現代美術の普及振興に貢献した」として西宮市文化賞を受賞。
- 2014年 兵庫県文化賞を受賞。

RaRa Project



藤原次郎 映像作家、写真家

兵庫県立但馬技術大学校 情報工学科非常勤講師

1955年、兵庫県朝来市生まれ。

大阪芸術大学映像計画学科卒業。

ビデオプロダクション、建築写真会社勤務後、2011年に独立。

作品は日本の芸術的表現の一つである「陰影」をたくみに表現し、自然、造形美、生物・人間の営みを感動的に表現することで知られている。

主な受賞歴

2008年 ワールドメディアフェスティバル 金賞&特別賞「MATSUTANI 1」

2009年 「MATSUTANI 1」モントリオール国際芸術映画祭上映

2013年 ワールドメディアフェスティバル 金賞&特別賞「ある建築の情景兵庫県木の殿堂」（設計安藤忠雄）

ワールドメディアフェスティバル 銀賞「城崎スケッチ」

テリーアワード 「城崎スケッチ」

2014年 日本自費出版文化賞 佳作 写真集「田平線」

2015年 ワールドメディアフェスティバル銀賞「生野スケッチ」

2016年 ワールドメディアフェスティバル金賞「豊岡絵巻」

著書・写真集「田平線」 刊:北星社

www.jiro-fujiwara.com

jiro@rb3.so-net.ne.jp



奥村恵美子

構成作家、映像プロデューサー、ライター

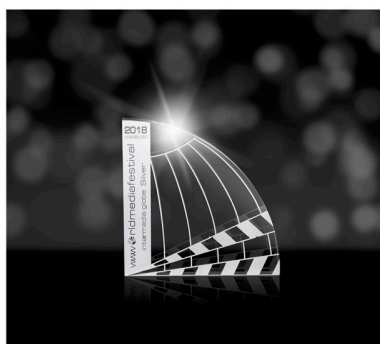
日本人の感性、美意識、精神文化を映像化し、日本文化のエッセンスの発掘、発見、発信を行う活動を展開。

欧米の映画祭での受賞作品は30を超え、フランス・ドイツ・ベルギー・フィンランドで上映会を企画実施。

映像によるコミュニケーションがテーマ。

1986年 映像企画を主業務とするクリエイティブハウスおくむら始める。
2004年 日本人の感性、美意識、精神文化を映像化し、日本文化のエッセンスの発掘、発見、発信を行う任意団体 JICP を組織。
2008年 美術家松谷武判の映像「MATSUTANI 1」が WorldMediaFestival で金賞と特別賞受賞。
2010年 日芬共同映像「いつもの風景」WMF で金賞受賞。映文連アワードで企画賞受賞。
2011年 美術家井田照一の映像「Surface is the Between」WMF で銀賞受賞、テリーアワード受賞。
2012年 デザイナー喜多俊之の映像「魂を込めたものづくり」が WMF で金賞受賞。
2015年 日独共同映像「水の記憶」が WMF で銀賞受賞。
2016年 美術家野田正明の映像「創造と対話 (Creation through Consultation) WMF で銀賞受賞。
2017年 美術家金子善明の映像「布は第二の皮膚 (The Cloth is the Second Screen) WMF で銀賞受賞。
(WMF は WorldMediaFestival の略)

www.ch-okumura.com
cho@ceres.dti.ne.jp



【ワールドメディアフェスティバルとは】

ワールドメディアフェスティバルは 2000 年にドイツ・ハンブルクで設立され、広報・アニメーション・ドキュメンタリー・教育・エンターテイメント分野での企業映像・TV 番組・印刷物・ウェブサイト動画などを対象とした、現代メディア国際コンペティションです。14 のメインカテゴリーにそれぞれにサブカテゴリーがあります。

今回の受賞は、ドキュメンタリーその他部門で銀賞受賞しました。

<http://www.worldmediafestival.org/>

2018 年は、37 ヶ国から 785 の作品応募がありました。

2018 年 5 月 16 日 (水) ドイツ・ハンブルクにて「WorldMediaFestival 2018」の授賞式が開催され、グランプリ、グランド・アワード、特別賞等の発表および金賞・銀賞の授与が行われます。

【この件に関するお問い合わせ先】

クリエイティブハウスおくむら 奥村恵美子

大阪市北区天満橋 1-8-10-706 cho@ceres.dti.ne.jp 090-3619-7910 www.ch-okumura.com